





だ。部活ができるのはどういうことなのか、  
 もう一度考えて判断しなさい」と言いました。  
 わたしは部活ができるのは当たり前と思っ  
 ていました。多くの人たちが納めてくれた税  
 金のおかげで、何の心配もなく部活ができると  
 は考えもしませんでした。だからスポーツが  
 したくてもできない人たちの話は衝撃でした。  
 わたしたちが放課後、当たり前のように行  
 っている部活動ですが、父が話すように税金  
 のおかげです。グラウンドも体育館も、多く  
 の人が納めた税金の結晶です。  
 税金を払っている人の中には、いろいろな  
 事情で好きなスポーツをできない人々がいま  
 す。自分がスポーツをできないのに、納めて  
 くれた税金の一部が、わたしたちの部活動に  
 使われていることを忘れてはいけません。  
 わたしたちが大人になったとき納めた税金  
 で、次の世代の子どもたちは、いろいろなス  
 ポーツで体と心を鍛えます。その子どもたち  
 が、部活動はできて当たり前と考えていると

知ったら、わたしたちは悲しくなるでしょう。  
 これと同じように、感謝の気持ちを持たず  
 に部活動をしているわたしたちの姿を見たら  
 税金を納めている大人たちはどう感じるでし  
 ようか。自分のやりたいスポーツもできない  
 のに税金を払っている人々は、納税という行  
 為をばからしく感じるのではないでしょう  
 か。納税は国民の義務ですが、気持ちよく納め  
 られるように、感謝の気持ちを込めて、部活  
 動に参加するのもわたしたち中学生の義務の  
 一つです。一生懸命部活をする姿を大人たち  
 が見て、「納めた税金が役になっているな」  
 と納得してもらわなければなりません。  
 税金は支え合いの仕組みです。納めるのも  
 義務であると同時に、それを使うわたしたち  
 も、将来社会に還元できる大人になれるよう  
 に、心と体を鍛練する必要がります。  
 「納税して良かった」と「税金を納めてくれ  
 てありがとう」と二つの気持ちが一つになる  
 ことが大切なのだと思えます。